

富山県地域交通戦略会議の 設置について

令和4年6月2日

富山県地域交通戦略会議

- 1. 富山県地域交通ビジョン（H28.3）の概要**
2. 第7回富山県地域交通活性化推進会議（R3.11）の結果
3. 富山県地域交通戦略会議の設置

富山県地域交通ビジョン（H28.3）の概要

- 県では、北陸新幹線等の開業による環境変化を踏まえ、本県の地域交通の基本的な方向性や重点施策等をまとめた「富山県地域交通ビジョン」を策定（H28.3）。
- ビジョンに記載した各取組の実施状況の確認や課題の協議のため、これまで、「富山県地域交通活性化推進会議」を定期的に開催。

（１）ビジョンの策定方針

地域交通ネットワークの確保・充実に向け、今後10年間の地域交通の目指すべき目標や基本的な方向性を示す

（２）ビジョンの基本理念と基本目標

- 基本理念 利用目的に応じた利便性の高い地域交通ネットワークを形成すること
- 基本目標 県、市町村、交通事業者、県民が連携、協力し、必要な取組を進め、次の3つの基本目標の実現に努める。
 - ①利便性向上による県民等の地域交通の利用促進
 - ②国内外の来訪者の円滑な移動の実現
 - ③持続可能で多様な地域交通サービスの実現

⇒ 基本目標の実現に向けた取組を進め、新幹線開業後の地域交通の利用水準の維持に努める。

（３）富山県地域交通活性化推進会議について

- 構成員 公共交通事業者（鉄軌道、バス、タクシー）、利用者代表、学識経験者、経済団体、行政（市の代表、町村の代表）
- 開催状況 例年1月頃に開催
(①H29.1.23 ②H29.9.13 ③H30.1.10 ④H31.1.15 ⑤R2.1.9 ⑥R3.1.18 ⑦R3.11.22)

(参考) 富山県地域交通活性化推進会議の体制について

■富山県地域交通活性化推進会議 委員名簿 (敬称略)

分野	所属・職名	氏名	分野	所属・職名	氏名
学識経験者	東洋大学名誉教授 東洋大学大学院経営学研究科客員教授	石井 晴夫	利用者代表	富山県高等学校PTA連合会理事	古川 和幸
	富山大学副学長 (都市政策担当) 大学院理工学研究部 教授 京都大学名誉教授	中川 大		富山県婦人会幹事	大井 千津子
	富山国際大学名誉教授	長尾 治明		富山県老人クラブ連合会会長	麻島 裕之
経済団体	富山県商工会議所連合会会長	高木 繁雄		元・全日本空輸(株)富山空港所長	白井 尚子
	一般社団法人富山県経営者協会会長	山下 清胤		富山大学学生	原田 隼輔
交通事業者	西日本旅客鉄道株式会社金沢支社 地域共生室企画課 交通企画室長	鹿野 剛史		公益社団法人とやま観光推進機構副会長・専務理事	山本 公生
	あいの風とやま鉄道株式会社代表取締役社長	日吉 敏幸	従事者代表	富山県交通運輸産業労働組合協議会議長	石橋 剛
	富山地方鉄道株式会社専務取締役	新庄 一洋	行政	富山市副市長	三浦 良平
	万葉線株式会社代表取締役専務	水上 哲		高岡市副市長	河村 幹治
	立山黒部貫光株式会社専務取締役	中川 修		立山町副町長	酒井 武史
	黒部峡谷鉄道株式会社代表取締役社長	鈴木 俊茂			
	加越能バス株式会社自動車部長	清水 浩二			
	公益社団法人富山県バス協会専務理事	小竹 典吉			
	富山県タクシー協会専務理事	清澤 新一			

地域交通を取り巻く社会・経済の動き

- 「富山県地域交通ビジョン」の策定（H28.3）から5年超が経過。
- ビジョン策定後、地域交通を取り巻く社会・経済の状況は大きく変化。

地域交通ビジョンの策定時（H28.3）

（1）北陸新幹線等の開業

→北陸新幹線等の開業を契機とする国内外の観光需要等の取込み

（2）少子高齢化・人口減少社会の到来

→利用者減やそれに伴うサービス低下への懸念

→高齢者の交通事故や免許返納者の増加

（3）地域交通に関する課題認識（つかいやすさ、わかりやすさの向上）

→交通機関の接続性向上

→交通結節点の強化

等

その後の状況の変化

I. 新型コロナウイルス感染症の流行

→外出・移動に対して消極的になり、コロナが収束しても、移動需要が縮小する懸念

II. 少子高齢化・人口減少の本格化

→利用者減やサービス低下への更なる懸念

→高齢者の免許返納者数の更なる増加等に伴う移動手段の確保の重要性

III. 地域交通を取り巻く環境の変化

→ライフスタイル、ワークスタイルの変化（新しい生活様式、リモートの普及等）

→デジタルの活用

等 5

1. 富山県地域交通ビジョン（H28.3）の概要
2. **第7回富山県地域交通活性化推進会議（R3.11）の結果**
3. 富山県地域交通戦略会議の設置

第7回 富山県地域交通活性化推進会議の概要

○ 社会の変化も踏まえたビジョンの取り扱いについて関係者の意見を聴くため、昨年11月に「富山県地域交通活性化推進会議」（例年1月頃開催）を前倒しで開催。

○ 日 程 令和3年11月22日（月） ※例年は1月頃開催

○ 議 題 「富山県地域交通ビジョン」の見直しについて

○ 概 要

- ・ 事務局より、「富山県地域交通ビジョン」の概要や、県内地域交通を取り巻く状況について説明。
- ・ 事務局からの説明後、今後、地域公共交通活性化・再生法に基づく法定協議会を立ち上げ、ビジョンを見直し、同法に基づく「地域公共交通計画」を新たに策定していくことについて議論。
- ・ また、今後ビジョンを見直していくに当たり、想定される主な論点として、
 - ①人口減少社会における地域公共交通の持続可能性の確保
 - ②デジタル化やICTなど新技術の活用
 - ③ウィズコロナ・アフターコロナを見据えた地域公共交通の構築の3点について意見交換を実施。

第7回富山県地域交通活性化推進会議の結果

○いただいた意見の大半はいずれも、新たな計画を策定していくことについて賛成の立場からのもの。

第7回 富山県地域交通活性化推進会議の主な意見

■学識経験者

- ・ ビジョンを見直して、地域交通の活性化がどうあるべきか検討していくべきだと思う。
- ・ 県が問題意識を先送りせず、新たな法定協議会を立ち上げて、将来の地域交通のあり方について検討していくことは素晴らしい。

■利用者

- ・ 事業者はいろいろな困難があると思うが、様々な方法を考えていただき、住民の生活が成り立つよう実態に配慮した検討をしてほしい。
- ・ 高齢者にとって、公共交通機関にたどり着くまでの足が問題。路線バスやコミュニティバス等の公共交通の他に、高齢者は病院のバスやスーパーマーケットが出しているバスをよく使っており助かっている

■交通事業者

- ・ 事業者では効率化を行っていかねばならないが、新たな協議会の中で、公共交通のサービスレベルをどうするのか明確にして、持続できる公共交通に向けた議論をしてほしい。
- ・ 高齢者の運転免許返納者については、利用がどんどん増えている状況。鉄道事業者や地方公共団体など、関係者が一緒になって地域全体の計画を考えていくことはとても必要。ぜひ法定協議会を立ち上げて進めてもらいたい。

県が中心となり **新たに法定協議会を立ち上げ**、ビジョンを見直し、「**地域公共交通計画**」を今後策定していくこととしたところ。

1. 富山県地域交通ビジョン（H28.3）の概要
2. 第7回富山県地域交通活性化推進会議（R3.11）の結果
- 3. 富山県地域交通戦略会議の設置**

富山県地域交通戦略会議の設置

- 地域公共交通計画の策定の協議の場として、新たに法定の協議会の設置が必要。
- 県内外から学識者・有識者に新たに参画いただき、「富山県地域交通戦略会議」を設置。

富山県地域交通戦略会議 ～ウェルビーイングの向上を目指して～

富山県地域交通戦略（地域公共交通計画）の作成及び実施に関する協議

- 市町村 富山市、高岡市、上市町
- 事業者 富山地方鉄道、加越能バス、万葉線、
あいの風とやま鉄道、JR西日本、
バス協会、タクシー協会
- 学識者 東洋大学名誉教授 石井晴夫氏
富山国際大学名誉教授 長尾治明氏
関西大学教授 宇都宮浄人氏
富山大学教授 大西宏治氏
富山大学教授 本田豊氏
- 利用者代表 高校PTA連合会
老人クラブ連合会、自治会連合会
- その他有識者 富山県トヨタグループ 品川祐一郎氏
博報堂 畠山洋平氏
モビリティジャーナリスト 楠田悦子氏
- 道路管理者 河川国道事務所、県土木部道路課
- 公安委員会 富山県警察本部
- その他 商工会議所連合会、観光推進機構、
交通運輸産業労働組合協議会
- 国 北陸信越運輸局
- 県 交通政策局を事務局として、部局横断で対応

富山県地域交通戦略会議における部会の設置（案）

- 本会議での主要な協議項目について、専門的な調査及び検討を行い、議論を深掘りするため、4つの部会を設置。

富山県地域交通戦略会議 ～ウェルビーイングの向上を目指して～

地域交通ネットワーク
全体

鉄軌道

生活圏内の身近な移動を
支えるいわゆる二次交通

交通事業者、沿線市町村
等による実務的内容につ
いての協議の場

サービス連携高度化部会

各交通機関や目的地が提供するサービスの連携・高度化による公共交通機関等の需要喚起について議論

- 有識者 長尾治明氏（部会長）
品川祐一郎氏
楠田悦子氏
- 事業者 富山地方鉄道
高岡交通
(タクシー協会から推薦)
- 関係者 商工会議所等から推薦
- 事務局 県（局長等）

鉄軌道サービス部会

鉄軌道の利便性・持続性確保のため、利用者視点に立った鉄軌道サービスの維持・改善等について議論

- 有識者 宇都宮浄人氏（部会長）
本田豊氏
- 事業者 富山地方鉄道
あいの風とやま鉄道
万葉線
JR西日本
- 事務局 県（局長、政策監）
※ 今後市町村等を適宜追加

地域モビリティ部会

地域の関係者によるモビリティ確保に向けた意欲的な取り組みの創出推進、横展開等について議論

- 有識者 大西宏治氏（部会長）
畠山洋平氏
楠田悦子氏
- 事業者 バス協会
タクシー協会
- 市町村 砺波市、朝日町
- 事務局 県（局長等）

交通ワンチーム部会

補助対象の幹線バス等の支援のあり方、見直しの必要性等について議論

- 県 局長（部会長）
- 市町村 15市町村
- 事業者 JR西日本
富山地方鉄道
あいの風富山鉄道
万葉線
加越能バス
バス協会
タクシー協会
- 関係者 道路管理者
公安委員会
- 国 富山運輸支局

(参考) 「ウェルビーイングの向上」 (富山県成長戦略(R4.2.18策定公表))

〔富山県成長戦略(R4.2月)抜粋〕

「真の幸せ」(ウェルビーイング)中心の成長戦略

・ 今後は、収入や健康といった外形的な価値だけでなく、キャリアなど社会的な立場、周囲の人間関係や地域社会とのつながりなども含めて、自分らしくいきいきと生きられること、主観的な幸福度を重視した「真の幸せ」(ウェルビーイング)を目指すことが経済成長の目的であり、手段でもある時代となり、新しい産業政策、新しい人材政策が必要となっています。

・ 産業政策の出発点となる人材集積を図るため、「新しい価値」「新しい産業」を生み出すことのできる人々が富山に育ち、定着するために、多様な人材がいきいきと暮らせる環境作りに取り組み、富山のウェルビーイングの向上を目指します。

・ 県民の活躍を支援するだけでなく、県外から富山を訪れる方々も温かく受け入れ、誰もが活躍できる文化を育むことで、人材交流を活発にし、世界で活躍できる人材を輩出するとともに、県外からの人材も活躍できる環境を作るなど、ウェルビーイングを通じた人材集積により、活力のある地域社会を作ることを目指します。

※ ウェルビーイング (well being)

世界保健機関 (WHO) 憲章の前文において、「健康とは、病気ではないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態 (well being) にあること」と定義